

## 平成 28 年度集大成

### 創立 30 周年記念「卒展」、卒業研究・ゼミ成果

・ケアスタディ発表会を終えて

専門学校静岡電子情報カレッジ  
静岡福祉医療専門学校  
校長 中村 徹

### 卒展 卒業研究・ゼミ成果・ケアスタディ発表会

平成 29 年 2 月 25 日

### 展示ブース

2 月 24・25 日

### ケアスタディ科内発表会

静岡福祉医療専門学校 2 年介護福祉学科 平成 29 年 2 月 23 日(火)  
2 年総合福祉学科 2 月 24 日(水)

### 卒業研究・ゼミ成果学科内発表会

専門学校静岡電子情報カレッジ 全学科 平成 29 年 2 月 9 日(木)  
静岡福祉医療専門学校

2 年医療情報秘書科 平成 28 年 12 月 8 日(木)

3 年子ども心理学科 平成 29 年 2 月 10 日(金)

### キッズハウスひかり託児所生活発表会「ひかりの日」

平成 29 年 3 月 4 日(土)

開校 30 周年という節目の平成 28 年度を振り返り、29 年度に向けての教育インフラ構築につなげていく。

今年度の我々を取り巻く社会的背景は、我が国の経済においては、消費税率引き上げが見送られ、景気の底割れは回避され、円安ドル高から日経平均株価が久しぶりに 2 万円をつけた。しかしながら、イギリスの EU 離脱やアメリカ新大統領トランプ氏の誕生で一国中心主義、経済至上主義が目立ち、金融市場は不安定化、急激な為替変動、新興国経済の減速、国内消費の伸び悩みなどにより、企業を取り巻く経営環境は不透明感を増している。

また、熊本地震や東北地方の大雨被害など、自然災害が頻発し、サプライチェーンの寸断や農水産物の価格高騰などにより社会経済に大きな影響をもたらした。

一方、静岡県では全体としては緩やかな回復基調が続いているが、景気回復の実感は乏しい状況にあり、人口減少の加速化

に伴い、あらゆる業種で人手不足が深刻化し、地域社会の生活や文化を持続的かつ発展的に維持することが困難になりつつあり、それを克服するためには、地域の人材を確保し、育成することが、地方の喫緊の課題である。他にも、第 4 次産業革命とも言われる IoT、ビッグデータやクラウド、AI の利活用、時代の流れに適応した働き方革命の推進、地域連携が求められている。

そうした流れにおいて、「キャリア教育・職業教育」の重要性が注目され、とりわけ、職業に直結し、地域に密着する専門学校の役割は大きなものがあることから、“職業実践的な教育に特化した枠組み”の先導的試行として平成 25 年に「職業実践専門課程」の認定制度が創設され、本学も平成 26 年文部科学大臣認定校となった。

さらに、文部科学省中央教育審議会で審議が行われていた「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化」について、現在、国会や文部科学省において、「専門職大学・短期大学」を平成 31 年 4 月 1 日の開学に向け準備されている。

本学もこのような動きに対応し、地域の企業等との連携を強化しながら、地域社会を支える職業的人材を育成する中核的職業教育機関としての自負を持って、社会の期待に応えなければならない。

今後の学生諸君の活躍を期待し、社会に貢献することが、本学の目的であり、役割であることを改めて自覚することを認識いただきたい。

このような社会的背景の中、学生諸君の良き先輩である同窓会と共催で平成 28 年 9 月 25 日(土)学校法人中村学園専門学校創立 30 周年式典を開催。休日にも拘わらず、国政からは赤池参議院議員、県政は佐野元県議会議員(第 100 代議長)、市政から繁田市議会議員(直前議長)、また公益社団法人静岡県職業教育振興会会長中村徹に代わり副会長堀田先生(学校法人自動車学園)等多くのご来賓にご臨席いただいた。ご臨席いただいたご来賓は日ごろから、本学園や学生諸君が日々の学校・社会生活の中で大変お世話になっている方々です。感謝です。今後、学生諸君が社会に出てからもご指導いただける方々です。



## 昭和 61 年

### 「静岡電子専門学校」・「専門学校静岡スクールオブビジネス」開校

昭和 61 年(1986 年)4 月、高度情報化時代の到来等、時代の変化をいち早く見抜き、コンピュータのプロフェッショナルを養成する総合カレッジ:CAN コンピュータアカデミー中村学園として、「静岡電子専門学校」(工業分野)及び「専門学校静岡スクールオブビジネス」(商業実務分野)を J R 静岡駅南口から歩いて 3 分の通学に便利な立地条件の南町キャンパス(本館)を設置、開校。当時、県中部地域では初めてのハードウェアの専門技術者養成校でした。また、平成 2 年(1990 年)には、スペシャリストを育成するのに相応しいインテリジェントカレッジ 2 号館(J R 静岡駅南口徒歩 5 分)森下町キャンパスを完成し、教科書と黒板だけでなく、音声、映像、コンピューターネットワークとを組み合わせたマルチメディアによる最先端教育環境における授業ができるなどの教育設備を構築。また、当時としては最先端の通信衛星スーパーバードとデジタル地上回線を活用した双方向通信衛星教育システムにより、北海道情報大学との併学制度を取り入れ、「大学の教養を身に付けた上に、学術的専門知識を身に付けることのできるゼネラリスト教育」と、「専門学校の情報処理、特化された専門知識技術を身に付けるスペシャリスト教育」の W 履修ができる大学コースを設置し、「県内唯一の大学併学制度」を導入、専門学校卒業と同時に大学卒業の資格を得られるなどの高度職業人育成を目指して、「全人教育」を柱に専門学校生の社会的地位の向上と静岡県内の「ものづくり」人材の養成に積極的に努めた。

## 平成 10 年

### 「専門学校静岡電子情報カレッジ」・「静岡福祉医療専門学校」開校

平成 10 年(1998 年)2 月には、最先端のマルチメディア教育環境を構築した 3 号館を 2 号館(平成 12 年度廃止)と本館の間に構築させ、その 4 月には、専門学校静岡スクールオブビジネスを、「専門学校静岡電子情報カレッジ」に校名変更すると同時に、静岡電子専門学校を吸収統合し、ICT 情報システム、ゲーム、デジタル映像・音響等のエンジニアや専攻科テクニカル研究科を設置し、ネットワークやセキュリティエンジニアの「より高度な職業人」育成を目指し、「学び直し(リカイト)教育」に応える環境を構築。

また、統合に合わせてその 3 号館に併設して、超高齢化時代、長寿社会に対応し、「高齢者が生きがいを感じ、健康に生きる

「長寿社会の形成のため」に、介護サービスが円滑に実施されるように、これに携わる「心豊かで専門的な知識、技術を身に付けた人材」の介護福祉士養成のための「介護福祉学科」及び「医療情報秘書科」（平成2年に設置）の修業年限2年制の2学科で「静岡福祉医療専門学校」を開校。

平成14年「総合福祉学科」：修業年限3年で県内唯一の社会福祉士(実務1年で受験資格)及び介護福祉士の両国家資格取得を目指し、また、高齢者や障害者の健康指導につながるレクリエーションのスキルで健康生活に寄り添える専門性も身に付ける。

平成21年「子ども心理学科」：保育士、幼稚園教諭、社会福祉主事の3つの国家資格取得を目指す課程。

平成23年子ども心理学科付帯事業「キッズハウスひかり」開園 姉妹校の第一ひかり幼稚園とともに教育連携を図り、現場中心の幼保教育の向上に努めている。

平成26年両校が文部科学大臣認定「職業実践専門課程」（県内17校、35学科）となる。

### 30年間で振り返る。

本学では「全人教育」を根幹として、「建学の精神」である創設者の教育理念を継承し「パイオニア(開拓者)の精神を基調とし、益々高度化する現代社会の変化に対応、更に試行錯誤の中からクリエイティブな精神を培い、独立自尊以って広く国際社会に貢献する人格の形成を重点とする。」「具現化：大いなる飛躍の為には、より恵まれた環境(人的・物的)があってこそ21世紀を担う、若人の夢の実現を可能とする。」及び「技術は力なり、我は我が道を行く。How to 人間でなく、Why 人間の育成」の「校訓」を指導目標にして、その上に、学生たちが社会に出てから困らない社会人基礎力に問題解決能力と専門性を身に付けた人材育成を目指し、学生たちが職業人として、技術のスペシャリストであるとともに、人間性豊かで、「日本人としてのアイデンティティ」を持った21世紀を担う社会人として、時代に即応したICT化、少子高齢化、グローバル化時代に通じる職業人の育成に尽力してきた。

その結果、創立以来就職決定率100%を誇れるのも、当学園の教育内容に対する社会的評価といえる所以であると自負し、専門学校創立以来30年、すでに5,000名以上の有用なる人材を社会に送り出している。

このように、本学は、静岡県私立学校の地位向上と私立学校教育の振興のため、その中でも特に「職業教育」の発展に尽力してきた。

今後とも学校法人中村学園両専門学校ともに「学生満足度」・「就職先企業満足度」・「家庭満足度」・「地域満足度」・「教職員満足度」を高めていくことを追求し、学校法人中村学園の社会的価値向上のために精進していきます。

今年度、創立30周年を迎えることができたのも、偏に皆様からのご厚情とご支援の賜と衷心より御礼申し上げます。

特に、同窓会1期生からの卒業生諸君の社会での「頑張り」と母校への「思い」のおかげと心より感謝申し上げます。今後とも良き母校、母港としてご協力をお願いします。

さて、資源が乏しい我が国は、少子高齢化に伴う労働力人口の減少がみられる中、「人材」の育成と確保こそが、今後の経済成長や国際競争力、地域の産業振興を決定づける最大の要因となり、

- ① 産業構造の変化に対応できる「実践的な職業能力を有する人材」
- ② 将来にわたり「付加価値を創出する質の高い人材」
- ③ 労働力のグローバル化が進展するなか「国際的にも高く評価される専門知識・技能を有する人材」

などの社会基盤を支える「ヒトづくり」が急務といわれる。

しかも、少子化が進み、日本の総人口は2007年1億2800万人をピークアウトに、高齢者率20%（うち後期高齢者8%）、生産年齢人口（「国の力」といわれる）60%が、2050年には総人口9,500万人、高齢者率40%（うち後期高齢者25%）、生産年齢人口50%と減少し、そこに働く人材にはより高度な職業能力が求められる。

また、「デジタルビジネス革命」によりITが効率化の道具から、本業を大きく変革するテクノロジーと変わり、「情報ビジネス産業」から「新価値創造産業」へと生まれ変わる「新たなビジネスモデル」を模索し、システム化している。

そして新たなビジネス領域創出手段としての、あらゆるものがインターネットにつながるIoT時代。

このような時代において本学の教育は、如何に社会の人材ニーズを的確に読み取り、社会が期待する人材育成に答えていくかを使命としている。

ゆえに、専門学校静岡電子情報カレッジでは、IoT、クラウド・コンピューティング時代の先端スキルを産業界との教育連携により、「インターンシップ」や「産学連携プログラム」等の「企業人との交流」を通して、「社会人基礎力」はもちろん、「企画力」、「本筋を見抜く洞察力」、「統合力」、「問題発見・解決力」

などの素養を身に付ける機会を教育プログラムに取り込んでいる。

また、静岡福祉医療専門学校では、少子・超高齢化社会の人材ニーズに応え、学科・学年ごとにテーマを決めた「職場実習」、「ボランティア活動」を通して「職業観のイメージ付け」や身に付けなければならない「社会人基礎力」に「専門スキル」を自らが認識できるような教育プログラムを構築している。

### 創立30周年記念「卒展」卒業研究・ゼミ成果・ケアスタディ発表会を振り返る

今年は保護者、高等学校教員、非常勤講師、学校関係者等も参列した中での発表会だ。

発表会においては、電子では完成度の高い研究内容であり、制作プロセスやターゲット設定がよくでき、コンテンツとの整合性も高く、プレゼンもポイントを押さえ、「付加価値」創造につながる研究発表がなされた。

そのような中でも、1年生の成果発表が内容は勿論、発表態度といい29年度に期待を持たせてくれるようなプレゼンで、来年度が楽しみです。

また、福祉では各学科ともそれぞれの職業観がよく表現され、来賓も教職員も「若い感性」による上達したプレゼンに称賛の拍手を送った。

**残してくれたみんなの集大成は、本学の財産である！！**

この成果は来年度に継承され、今年度以上の大きな成果を期待するところだ。

特に、電子の「産学連携プログラム」や「コラボによる付加価値創造につながるレベルの研究」、福祉においては「地域に開かれた専門学校」に基づく「ボランティア：地域活動」等の後輩への継承を強く期待する。

**「緊張」と「失敗」は成長への「肥やし」である！**

今後とも研鑽重ね、「自信」と「誇り」を持ち、社会に船出し「スペシャリスト」としての道を切り拓いていただきたい。



9月23日(金) 創設者中村忠雄初代理事長 胸像除幕式